

8. 貧困と不平等について

「貧困」とは厚生経済学的には低所得として概念づけられているが、貧困を規定するのは、前述のように自己の低所得ばかりではなく、社会の平均的水準と言う社会内の他者との関係にも影響を受けている。それが相対的貧困概念の提示であり、この貧困は他者との関係において生起するという意味で、その本質は不平等、格差問題である。

(※この事を数理的に示しているのがセン測度(所得分布を変数とする厚生関数)であり、この測度には不平等測度としてなじみのある「ジニ係数」が、「入れ子」のように内包されており、そのはじきだす貧困度に関与する。)

しかし社会内の他者との関係が、貧困をどの程度規定するのかについては、多様な考え方があり、たとえば所得を媒介にする貧困測度(厚生関数)ではその考え方の様々をさまざまな公理として明示しているところである。不平等問題に係わる公理は多く提示されており、様々な考え方、傾向性を示している。

そして貧困は低所得問題として低所得層の状態であるのに対して、不平等は全階層を含む社会全体の構造を指している。この関係故に、センの貧困指数の不平等計測は貧者の所得情報のみによるので、その抱えるジニ係数の均等分割線は貧困線である。しかし不平等を被る側の人々の所得の向上は、貧困を削減させる事ができるという意味で、貧困と不平等と言う二つの概念は大きな相互性を有している。

また不平等問題とは、社会の不平等を何の不平等を問題にして測るのか、たとえば所得、権利、自由などの様々な事柄のうちの何の不平等に注目するのか、そしてどの水準の人々と比較して測るのかによって、その評価が異なるという相対性を抱え持っている。「相対的貧困」は「生活様式の平等」という多焦点的な問題に注目して、社会の平均的な水準と比較する概念であり、これらが相対的貧困の議論の複雑さの構造である。

このような事柄を踏まえつつ、センは所得による貧困測定にあっても、その社会が餓死を招く飢饉のような状態の場合には、社会の平均的水準や相対的貧困線以上の所得があっても不平等に晒されていない場合にも、食糧を求める事ができないという事態、平均的水準や相対的貧困線が絶対的貧困線を下回る事態を指摘する。

センはそのような事態、飢餓や飢饉と言う過酷な貧困状態にあっては、貧困のコアとなると言うべき絶対的貧困があり、相対的貧困(不平等問題)はその補完物であると導いている。

☆☆☆個人の幸せを求める「自由」と「社会」☆☆☆

人間の幸せが何であるか、それはさまざまな考え方がありうる。

そして我々は一人一人、何よりも時代の思想、風潮などと無縁ではられない。近代以降の産業社会の中で、先進諸国では貨幣による交換システム（市場）に覆われた人間生活が展開されており、否応なく市場の論理に晒されつつ豊かさのイメージ、幸せを追い求めている。

センの「ケイパビリティ」という概念は、その人の境遇と、その社会において、幸せを求める行動の自由、その結果達成できる豊かさと定義される。しかしこのような自由を求める個人には近代的自我作用において、最大の合理性と、行動の柔軟性が求められている。

あたかもマックスウェーバーが言う如く「日夜の刻苦精励」をもって、レヴィ＝ストロースの言う熱く変わりつつある「熱い社会¹」に生きて、「熱き社会」に適用し、順応して、幸せを、富を切り拓かねばならない。

センにおける社会と個人の関係は、個人が社会を生きやすく変えようとする、規制を入れる側の主体とみなされている。しかし、この規制や文化を抱えている社会は、主体たる個人の自由意思を包み込んでいと指摘されている。

自立的に判断する主体、そのような自我作用、個人の自由意思と言う観念の揺らぎこそが「ポストモダン」であった。フロイドの潜在意識、あるいは神話、民族の記憶のような、理性、主体の思考の手の届かない所で主体の思考を包んでいる「構造」、「象徴機能」、「象徴秩序」の発見は、個人の主体、その自由の独立性に疑問をなげかけたのであった。

しかしセンはこの文脈から、社会に対して、人々の自由の「平等な保障」を求めており、その為の社会制度を整えるべきとしている。現在の社会は障碍のある個人、貧しい出自の人々、病弱な人々にとって生き易くはないという認識である。

人は、人間の豊かさ、幸せをどのように描けるのだろうか？

厚生経済学は、「個人の自由」と言う近代主義の最たる概念を持って、社会の変質、社会システムのあり方、社会保障に言及している。文化人類学は、そもそも人間の社会は人間の生存条件の交換のシステムであり、互酬的な交換をもって人間集団間の、人間同士の交流を、コミュニケーションを促してきたと言うのである。

—センの生活機能と社会福祉の生活問題へ—

¹レヴィ＝ストロース/エリボン 竹内信夫訳『遠近の回想』P225 みすず書房 1991年12月